

## 各県立病院の課題

病院名 埼玉県立循環器・呼吸器病センター

項目	現 状		今後必要な取組み										
	現状及び取組み	課 題											
1. 診療機能	<p>○ 昭和29年結核療養所として開設後、平成6年に循環器系・呼吸器系疾患の高度医療を担う病院として改組されるなどして現在に至っている。</p> <p>※ 心臓カテーテル治療数や肺がん手術数は、全国トップクラスの実績を有している。</p> <p>○ 平成29年3月 新館棟を開設し24床増床</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">県北部医療圏初となる緩和ケア病床新設</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>268 → 292(うち緩和ケア24 ICU等31)</td> </tr> <tr> <td>結核</td> <td>51 → 30</td> </tr> <tr> <td>感染症</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>319 → 343</td> </tr> </table> <p>○ 平成30年3月 腎・透析センターを開設</p> <p>○ 診療科 呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、緩和ケア内科、呼吸器外科、消化器外科、血管外科、脳神経外科、心臓外科など13科</p>	県北部医療圏初となる緩和ケア病床新設		一般	268 → 292(うち緩和ケア24 ICU等31)	結核	51 → 30	感染症	21	計	319 → 343	<p>○ 当センターが所在する県北部地域では、既に人口減少が急速に進行している。</p> <p>○ 当センターは、北部保健医療圏の主な自治体(熊谷市、深谷市、本庄市)の中心市街地のいずれからも遠い交通不便地に立地しており、高齢の患者やその家族にとって通院が大きな負担となっている。(最寄りのJR熊谷駅からバスで30分)</p> <p>○ 多額な投資による施設や最新医療機器の整備により近隣の民間病院が台頭して患者争奪がさらに厳しさを増す中、新規患者を確保していかなければならない。</p> <p>○ 様々な人脈や医師紹介会社等も活用して医師の確保に懸命に取り組んでいるが実際に面接まで達するケースは少ない。必要な医師数の確保が思うように進まず(緩和ケア科等)新館棟建設により整備した新たな医療機能をフルに発揮できていない状況にある。</p>	<p>○ 昨年度当センターが近隣医師会から聴取した意見も踏まえながら循環器・呼吸器診療のさらなる充実を図る。</p> <p>○ 高齢化した患者の負担軽減に資するため経皮的動脈弁置換術(TAVI)やリードレスペースメーカーなど、低侵襲で先進的な高度医療を推進する。</p> <p>○ 北部地域における埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク(SSN)基幹病院となりうる体制の整備に向けて、関係機関への働きかけをさらに進める。</p> <p>○ 近隣医師会や医療機関との連携をさらに強化するなど新規患者獲得に向けた取り組みを進める。</p> <p>○ 現在、当センター医師1人が本県がんセンター緩和ケア科で研修中であるが、さらに内部研修等により資格取得に努めるなど医師の人材確保を図る。</p>
県北部医療圏初となる緩和ケア病床新設													
一般	268 → 292(うち緩和ケア24 ICU等31)												
結核	51 → 30												
感染症	21												
計	319 → 343												
2. 経営	収益等	<p>&lt;患者数等&gt;</p> <p>○ 平成28年度及び平成29年度当初は、新館棟建設や移転に伴う患者受け入れ制限により影響が生じている。</p> <p>平成27年度 入院：88,457名 外来：73,377名(79.9%)  平成28年度 入院：84,546名 外来：71,569名(76.2%)  平成29年度 入院：86,570名 外来：72,589名(70.6%)</p> <p>( )：医業収支比率</p>	<p>○ 新館棟開設により増床したが、必要な医師が十分に確保できていないことなどから、患者数は伸び悩んでいる。</p> <p>○ その一方、人件費、委託料、減価償却費など固定費が大幅に増加している。</p>	<p>○ 近隣医師会や医療機関、消防本部などとの連携をさらに強化して新規患者の獲得を図る。</p> <table border="1"> <tr> <td>・救急患者の積極的受け入れ</td> <td>・医療機関訪問の拡充</td> </tr> <tr> <td>・地域医師会との病診連携会のさらなる充実</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・紹介患者受け入れのさらなる円滑化</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">(医師専用ホットラインや予約専用電話の活用)等</td> </tr> </table> <p>○ DPC適正運用による病床管理により、単価と利用率のバランスのとれた病床運営を行う。</p>	・救急患者の積極的受け入れ	・医療機関訪問の拡充	・地域医師会との病診連携会のさらなる充実		・紹介患者受け入れのさらなる円滑化		(医師専用ホットラインや予約専用電話の活用)等		
	・救急患者の積極的受け入れ	・医療機関訪問の拡充											
・地域医師会との病診連携会のさらなる充実													
・紹介患者受け入れのさらなる円滑化													
(医師専用ホットラインや予約専用電話の活用)等													
	費用等	<p>&lt;医療機器&gt;</p> <p>○ メーカーに補修用の部品が無くなるなど修理対応期限切れを迎えているが、予算上の制約などから更新できない医療機器が多い。</p> <p>○ 予算計上していない高額医療機器が故障した場合、他の医療機器の修繕に大きな影響が生じている。</p>	<p>○ 厳しい経営状況の中、中長期的な視点に立った医療機器の購入・更新計画を立案し実施することが難しい状況にある。</p> <p>○ 老朽化した機器の突然の故障発生に対応する費用の工面等に苦慮することが多い。</p>	<p>○ 中長期的な視点に立った整備計画に基づき医療機器等の更新を確実に実施する。</p>									
3. 人材	<p>&lt;① 医療スタッフ&gt;上記「1 診療機能 課題欄」記載の通り</p> <p>&lt;② 事務職員&gt;</p> <p>○ 知事部局と同じ枠の中で人事異動がなされている。</p>	<p>&lt;① 医療スタッフ&gt;上記「1 診療機能 課題欄」記載の通り</p> <p>&lt;② 事務職員&gt;</p> <p>○ 専門性が求められる医事担当職員の育成が難しい。</p>	<p>○ 引き続き人材の確保に取り組むと共に、職員の育成と資質の向上に努める。</p>										
4. その他 (自由記入)													